



れんげそう

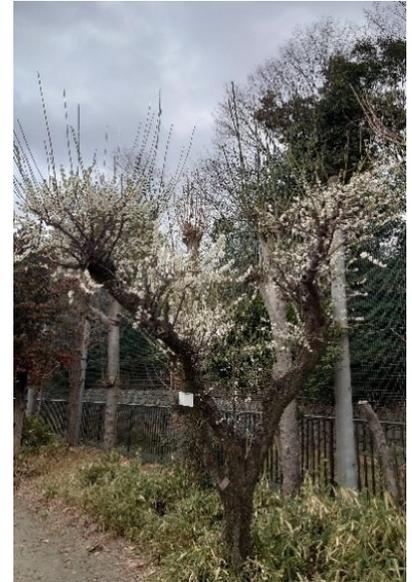
令和8年2月27日
福生第五小学校
学校通信第583号

感謝の心

校長 泉田 巧人

日ごと暖かな光が注ぎ、校庭の草木が春を感じ芽吹き始め、梅の花も満開になりました。令和7年度も残すところあと一か月です。3月は、24日(火)に修了式、25日(水)に卒業式が行われ一年を締めくくる月となります。

さて、2月6日から22日までミラノ・コルティナ2026冬季オリンピックが開催されました。日本選手団は、金メダル5個、銀メダル7個、銅メダル12個の合計24個と、前回の北京2022冬季オリンピックのメダル18個を上回る活躍でした。たくさんの感動を与えてくれたオリンピックでしたが、その中でも私が印象に残ったのがフィギアスケートペアに出場した、りくりゅうペアこと三浦璃来選手、木原龍一選手の演技でした。ショートプログラムでは、リフトのミスにより首位と6.9点差の5位になってしまいました。しかし、フリーの演技では、歴代最高得点を上回る世界最高得点を出し、大逆転の金メダルを獲得しました。お互いを信頼し、逆境においても自分たちを信じて諦めることなく挑む姿勢が、持てる力を最大限に引き出せたのだと思います。他にもたくさんのドラマがあり、メダルを取る取らない関係なく、一生懸命に競技や演技をしている選手の姿はとても輝いていました。



校庭に咲き誇る梅の木

そして、インタビューを受けた選手に共通したのは、支えてくれた方々、声援を送ってくれた方々への感謝の気持ちでした。選手はつらい練習を乗り越え、オリンピック当日も大きなプレッシャーや不安と戦うなど、私たちには計り知れない努力や苦しみがあったと思います。しかし、選手たちは、今の自分があるのは、自分一人の力ではなく、周りの人たちの支えがあったからこそと、それぞれの言葉で伝えていました。この感謝の心が選手を支え、多くの人たちに応えようと、どんなことも乗り越える原動力になったのではないのでしょうか。

本校の子どもたちも、一年間を通して学習や行事等に一生懸命に取り組んできました。新たなことを学び、様々な活動に挑戦し、友達同士で助け合い、時には困難に直面し、苦しみや悩みを乗り越え、大きく成長してきました。子どもたちには、これまで成長してこられたのは、自分自身の努力はもちろんですが、家庭、地域、諸機関、学校等の様々な方が、影となり日向となり、教育環境を整え支えてくれていることを忘れないでほしいと思います。応援してくれている人がいることに常に感謝の心をもち謙虚な姿勢でこの先も学び続けていってほしいです。

本校は今年度「やさしい学校～思いやり大作戦～」をテーマに、家庭、地域、教育委員会等の諸機関に多くの御協力いただきながら、教職員が一丸となって様々な教育活動を行ってきました。学校全体を見てみると、子どもたちは確かに成長してきていますが、学校教育としてやるべきことはまだまだたくさんあります。全ての子どもたちが、安心していつも笑顔で学び続けられる優しい学校を築き上げるため、更に尽力し、教育環境を整えていきたいと思っています。

最後になりましたが、保護者の皆様、地域の皆様、関係諸機関の皆様には、一年間本校の教育活動に御理解と御支援をいただき感謝申し上げます。これからも教職員一同、感謝の心を忘れず、より良い学校づくりに努力してまいります。どうぞよろしく願いいたします。